

会社概要 平成21年9月30日現在

商号 マミヤ・オーピー株式会社
 本店所在地 東京都品川区西五反田二丁目11番17号
 設立 1948 (昭和23) 年2月
 資本金 39億58百万円
 従業員 113名

役員
 代表取締役社長 矢崎 登 取締役 峰島 重雄
 取締役副社長 島田 和長 取締役 磯部 圭一
 常務取締役 山本 和孝 常勤監査役 志田 太利夫
 取締役 鈴木 登 監査役 関口 正夫
 取締役 鈴木 聡 監査役 渡邊 光治
 取締役 菅原 正巳

グループ会社
 ユナイテッドスポーツテクノロジー・ホールディングスInc.
 (米国・デラウェア州)
 ユナイテッドスポーツテクノロジー・LP.(米国・テキサス州)
 マミヤ・オーピー(バングラデシュ)Ltd.(バングラデシュ・チッタゴン市)
 マミヤ・オーピー・ネクス株式会社(埼玉県さいたま市)
 エフ・エス株式会社(東京都品川区)

事業所および事業内容
 本 社 〒141-0031 東京都品川区西五反田二丁目11番17号 HI五反田ビル
 総務部 Tel 03-5437-2311 Fax 03-5437-2363
 ・本社(管理本部、監査室、事業開発室)

NN事業所 〒141-0031 東京都品川区西五反田二丁目12番19号 五反田NNビル
 ・電子機器事業本部(営業部)
 Tel 03-5437-2573 Fax 03-5437-2473
 バチンコ台間玉貸機、紙幣搬送システム、小型券売機などの販売
 ・UST Mamiya事業本部(営業課)
 Tel 03-5437-2430 Fax 03-5437-2472
 ゴルフシャフト・ゴルフ関連用品及び遮断桿の販売

技術開発センター 〒141-0031 東京都品川区西五反田一丁目23番9号 りそな五反田ビル
 Tel 03-5759-2660 Fax 03-5759-2770
 ・電子機器事業本部(開発部)
 バチンコ台間玉貸機、紙幣搬送システム、小型券売機などの開発

岩槻事業所 〒377-0004 埼玉県さいたま市見沼区卸町二丁目6番21号
 Tel 048-680-5201 Fax 048-680-5203
 ・電子機器事業本部(生産部・品質保証部)
 バチンコ台間玉貸機、紙幣搬送システム、小型券売機などの製造
 及び品質保証

戸田事業所 〒335-0031 埼玉県戸田市美女木三丁目5番1号
 Tel 048-449-6699 Fax 048-449-6711
 ・UST Mamiya事業本部(管理課・開発課)
 ゴルフシャフト・ゴルフ関連用品及び遮断桿の開発

Mamiya-OP Co.,Ltd.

マミヤ・オーピー株式会社
 東京都品川区西五反田二丁目11番17号
<http://www.mamiya-op.co.jp/>

株主メモ

事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日まで
 定時株主総会 6月
 剰余金の配当基準日 期末配当 3月31日
 中間配当 9月30日

単元株式数 1,000株
 株主名簿管理人 東京都中央区八重洲一丁目2番1号
 みずほ信託銀行株式会社

お問い合わせ先

| | 証券会社に 口座をお持ちの場合 | 特別口座の場合 |
|-----------|--------------------|---|
| 郵便物送付先 | | 〒168-8507 東京都杉並区和泉2-8-4 |
| 電話お問い合わせ先 | お取引の証券会社に なります。 | 0120-288-324 (フリーダイヤル) |
| お取扱店 | | みずほ信託銀行株式会社 本店および全国各支店 みずほインベスターズ証券株式会社 本店および全国各支店 |

公告方法 電子公告(当社ホームページに掲載)
 ただし、やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載して行います。

株式情報 平成21年9月30日現在

株式の状況 発行可能株式総数 150,000,000株
 発行済株式の総数 93,481,700株
 株主総数 8,018名

大株主

| 株主名 | 株式数(株) | 持株比率(%) |
|--|------------|---------|
| 株式会社データ・アート | 54,545,000 | 58.34 |
| 東京海上日動火災保険株式会社 | 846,204 | 0.90 |
| 日本証券金融株式会社 | 729,000 | 0.77 |
| エヌティーシーアカウンティングサービス株式会社 | 701,000 | 0.74 |
| 原 幸 一 郎 | 676,220 | 0.72 |
| みずほ信託銀行株式会社 | 443,000 | 0.47 |
| 株式会社東京都民銀行 | 390,000 | 0.41 |
| 王 厚 龍 | 340,000 | 0.36 |
| シービーエヌワイディエフエイ インベストトラストカンパニー ジャパン スモールカンパニーシリーズ (常任代理人 シティバンク銀行株式会社) | 285,000 | 0.30 |
| 曾 我 部 正 史 | 263,000 | 0.28 |



Interim Report 2009

第68期 中間報告書

2009.4.1 ▶ 2009.9.30



マミヤ・オーピー株式会社

経営理念

「ものづくりを通し、信頼性の高い技術と品質をお客様に提供し、豊かな未来を拓いていく」

経営方針

- 1 利益ある成長 企業活動の源泉である健全なる利益を追求した経営を実行します。
- 2 徹底したお客様志向による信頼性の確保 お客様の目線で「ものづくり」を行い、お客様の満足と信頼を得られる経営を実行します。
- 3 独自分野に果敢に挑戦する開拓精神 失敗を恐れずに、時代を一步リードする独自分野に挑戦する経営を実行します。
- 4 法令等を遵守し、公正かつ良識ある企業活動 すべての役職員が法令等を遵守し、公正誠実な企業活動をとることで、お客様や社会から信頼され共感を得られる経営を実行します。

行動指針：MI-5 (エムアイファイブ) Mission Improve

5つの使命を掲げ、常に進歩(Improvement)を続け社会に貢献する企業を目指してまいります。



- 1 Mannerism (マンネリズム) の排除 = 前例主義、現状維持は後退を意味します。常に問題意識を持ち、型にはまった手法を排除し、自由な発想で仕事に取り組みます。
- 2 Motivation (モチベーション) の向上 = 意欲なくして進歩はありません。常に高い向上心を持ち、積極的に会社構築に参画します。
- 3 Moral (モラル) の維持 = 自由を尊重しつつ、組織人・一般社会人に求められる社会規範を守り、秩序ある行動をとります。
- 4 Market (マーケット) 志向 = お客様目線の発想を徹底し、世の中の動きに敏感に反応する行動をとります。
- 5 Make a profit (プロフィット) = 健全なる利益を追求し、結果の出せる行動をとります。

真の改革に取り組むべく、全社員が一丸となり邁進します。

株主の皆様におかれましては、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。また、第68期中間報告書をお届けするにあたり、当社事業に対する平素よりの格別のご理解・ご支援に、心より御礼申し上げます。

さて、マミヤ・オーピーグループは平成18年以降、光学機器事業の譲渡、本社・工場の売却・移転等を柱とする大胆な事業再構築の断行、さらには、健全化した財務体質を基盤としたM&Aによる新規事業への積極的展開を図るなど、企業体質の抜本的改革による経営再建への取り組みを着実に進めてまいりました。

このような成果を踏まえ私どもは、第68期を、さらなる成長と堅牢かつ多彩な事業展開へのファーストステップと位置づけ、持続的成長へのロードマップを描くべく、様々な施策を展開しております。

まず電子機器事業におきましては、カードユニットOEM事業の縮小傾向が鮮明となる中、これに過度に依存する事業構造の再構築を加速し、レジャー産業の雄である遊技関連マーケットに深く浸透し、当社の地位を磐石なものとするべく、市場開拓に貪欲に取り組んでおります。

私どもは、競争の激化による事業環境の悪化をむしろチャンスと捉え、経営・営業・開発の中核機能と情報の東京・五反田オフィスへの集中と生産の一層の合理化による有効かつ効率的な事業運営によって、あらゆるビジネスチャンスを逃すことなく、事業領域のさらなる拡大と新たな中核事業の確立を実現し、卓越した「ものづくり」企業へと成長すべく全力を尽くします。

一方スポーツ事業におきましては、グローバルブランドとしての「USTMamiya」を立ち上げ、「Visible Player, Visible Shaft～輝けるプレーヤーに輝けるシャフトを～」をコンセプトに、内外一体となったマーケティングの徹底によるブランド確立を強力に推進しており、去る9月10日に発売いたしましたUSTMamiyaシャフト第一弾「ATTAS(アッタス)」も、おかげさまで、国内外のマーケットで大変なご好評をいただいております。

また、USTMamiya契約プロであるスチュアート・シンク(A XIV-Core使用)が、第138回全英オープンにおいて優勝を果たしたことも、是非お伝え申し上げたいトピックです。

このように、私どもは、新たな構想の下での積極的な事業展開を強力に推し進めることによって大きな飛躍を果たし、株主の皆様への安定的かつ継続的な利益還元を可能とすべく、全社員が一丸となって業績向上に邁進する所存でございますので、株主の皆様には、これまでも増してのご支援・ご厚情を賜りますようお願い申し上げます。

平成21年12月
マミヤ・オーピー株式会社

代表取締役社長

矢崎 登



電子機器事業部門 — 社会に大きく貢献するエレクトロニクス技術

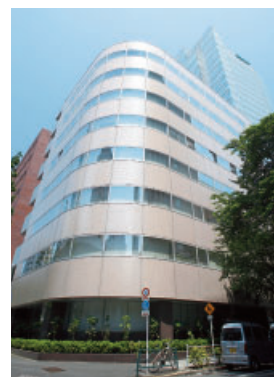
電子機器事業において当社は、お客様のニーズを迅速かつ的確に把握することによる、新たな技術の開発・導入による新製品開発に積極的に取り組み、台間玉貸機等のパチンコ周辺機器及びアミューズメント関連機器、さらには小型券売機や薄膜膜厚計などの分野において、高品質な製品をタイムリーに供給することによって、社会に大きく貢献してまいりました。

しかし、当社の主力事業であるパチンコ周辺機器業界においては、人気パチンコ台からの波及効果等の明るい兆しも見受けられるものの、パチンコ規制強化等によって加速したパチンコ遊技人口の減少による市場の縮小、それに伴うパチンコホール淘汰及び設備投資意欲の減退等の厳しい事業環境が続いております。

当社は、このような厳しい環境においても持続的成長を果

たすべく、中核機能の東京・五反田への集約による戦略的かつ迅速な意思決定の下で、カードユニットのOEM事業への過度の依存を脱却し、より安定した収益基盤の確立と、さらなる成長を可能とする経営資源の強化を実現するため、人材確保、独自技術の開発、新規市場の開拓等、営業・開発の両面からの体制整備を着実に進めると共に、激しさを増す一方の価格競争に対応するため、生産方式の改善等による生産性向上への粘り強い取り組みを中心とした一層のコストダウンを図る一方で、お客様の信頼にお応えすべく、品質管理の徹底に万全を期しております。

とりわけ、平成20年4月のマミヤ・オーピー・ネクス株式会社への買収による、紙幣搬送システム・紙幣識別装置等の開発・製造・販売事業への新規参入に続き、本年4月には、エフ・エス株式会社を完全子会社とすることで、遊技場向けシステム関連事業（遊技システム及び磁気カードシステムの設置・保守等）に進出する等の一連の戦略的M&Aによって、遊技機周辺機器業界における依然として厳しい経営環境を克服し、事業領域の拡大による経営基盤の強化を実現することができるものと、当社は考えております。



■ 本社 社屋



■ 技術開発センター 社屋



■ 岩槻事業所 社屋



調整・検査ライン



カードユニット(メタル貸機・台間玉貸機)



Operal 高性能小型券売機



マルチチャンネル型 薄膜膜厚計



紙幣搬送システムの生産

スポーツ事業部門 — 統一ブランド「USTMamiya」によるグローバルマーケティングの展開

当社は、昭和48年に国産初のカーボンシャフトを発売して以来、常に時代の先端を行く技術を開発することによって、ゴルファーの夢である「より速くへ、より正確に」を実現することができる先進のシャフトを、次々に世に送り出してきました。

世界初の4軸織物を搭載した「AXIV」シリーズは、その斬新さと高性能ゆえに、トッププロをはじめとする内外の多くのゴルファーから圧倒的な支持をいただき、また、アパレルデザイナーとのコラボレーションによる、これまでにない高いデザイン性を誇るレディースシャフトは、ファッション・コンシャスなゴルファーの話題を独占いたしました。また、現在では当社スポーツ事業の主力市場に成長した米国におきましては、平成3年にUST（ユナイテッドスポーツテクノロジー・LP.）を設立して以来、「Proforce Gold」による日本製シャフトとして初めてのマスターズ制覇（平成11年）等を契機として、数多くのヒット商品を生み出し、「Proforce V2」そして「AXIV Core」が、スチュワート・シンク、ロッド・パンプリング、デービス・ラブ三世ら契約プロの活躍もあり、ツアープロにも浸透いたしました。

とりわけ、本年7月に開催された第138回全英オープンにおいて、「AXIV Core」を使用するスチュワート・シンクが、優勝の栄冠を勝ち得たことは、当社シャフトの優れた性能を改めて実証するものです。

そして、「USTMamiya」を冠したグローバルモデル第一弾「ATTAS」は、本年9月の発売と共に大きな反響を呼び、予想を上回る受注をいただくことができました。

また、海外生産拠点であるバングラデシュ工場（MOPB）では、平成元年のスタート時点から培った高度な生産技術により、シャフトの安定生産はもとより、品質面の管理強化、生産の効率化、またUST中国工場との連携強化などをさらに進め、お客様の要望に的確に対応できる工場運営を行うと共に、精密部品の生産・加工及び組み立て等も積極的に行い、精密機械加工技術を生かした新規ビジネスの開拓を図っております。

当社は、「USTMamiya」ブランドの下、ワールドワイドな視点からスポーツ事業を展開し、日本、米国そしてバングラデシュにまたがるグループの総力を挙げて、持続的成長の実現のために全力を尽くしてまいります。



ATTAS



AXIV Core



■ 戸田事業所 社屋



ユナイテッドスポーツテクノロジー・LP.



マミヤ・オーピー(バングラデシュ)Ltd.



マミヤ・オーピー(バングラデシュ)Ltd.

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、世界同時不況が深刻化する中で幕を開けましたが、雇用情勢等の低迷は続いたものの、海外経済の改善や在庫調整の進展等を背景として、企業業績や個人消費等に持ち直し傾向が見られる中で推移しました。

このような経済情勢の下で当社グループは、厳しい経営環境を、戦略的M&Aを柱とした事業領域の再構築と拡大あるいはブランドの確立・強化によって克服することで、持続的成長を果たすべく、着実な取り組みを進めております。

この結果、当第2四半期連結累計期間の連結業績は、売上高80億9百万円（前年同期比37.0%増）、営業利益7億12百万円（前年同期比611.1%増）、経常利益7億40百万円（前年同期比1,773.3%増）、四半期純利益は6億7百万円（前年同期比1,540.6%増）となりました。

事業部門別の業績は次のとおりです。

電子機器事業部門

電子機器事業部門は、戦略的事業再構築を積極的に推進することで、より安定した収益基盤の確立と、持続的成長を可能とする経営資源の強化に粘り強く取り組んでまいりました。そして当第2四半期連結累計期間では、後半においてOEM先の新製品投入への期待感から既存製品の買い控えが生じたものの、前半において旧仕様カードユニットの予想を上回る大規模な入替受注をいただくと共に、一連のM&Aによる新規事業が収益に一定の貢献を果たせる段階に至ったこともあり、前年同期を大幅に上回る売上及び利益を計上することができました。

この結果、売上高は71億83百万円（前年同期比65.1%増）、営業利益は8億20百万円（前年同期四半期は20百万円の営業損失）となりました。

スポーツ事業部門

当第2四半期連結累計期間においてスポーツ事業部門は、国内市場では、当初は厳しい市場環境下におけるOEMシャフトの売上不振のため低迷しましたが、USTMamiya第一弾のグローバル・シャフト「ATTAS」が、本年9月の発売以来、予想を大幅に上回る受注をいただくと共に、「AXIV Core」を牽引車とする「AXIV」シリーズの売上も好調となり、前半のマイナスを概ねカバーすることができました。また海外市場においては、主力である米国市場において、USTMamiyaブランドの下での積極的なマーケティング展開による市場浸透に一定の成果を上げたものの、世界同時不況の深刻な影響から逃れることができず、売上・利益共に前年同期より大幅に減少し、営業損失を計上しました。

その結果、売上高は8億26百万円（前年同期比44.8%減）、営業損失は1億8百万円（前年同期四半期は営業利益1億21百万円）となりました。

全英オープンを制す！



平成21年7月、スコットランド・ターンベリーで開催された第138回全英オープンにおいて、USTMamiya契約プロであるスチュアート・シンク(Stewart Cink)が、AXIV Coreを使用し、見事メジャー優勝を果たしました。

四半期連結貸借対照表（要旨）

単位：百万円

| 科 目 | 当第2四半期 平成21年9月30日現在 | 前第2四半期 平成20年9月30日現在 | 前会計年度末 平成21年3月31日現在 |
|----------------|------------------------|------------------------|------------------------|
| ● 資産の部 | | | |
| 流動資産 | 10,783 | 8,950 | 10,044 |
| 固定資産 | 2,441 | 1,163 | 1,967 |
| 有形固定資産 | 454 | 518 | 447 |
| 無形固定資産 | 369 | 206 | 182 |
| 投資その他の資産 | 1,617 | 437 | 1,337 |
| 資産合計 | 13,225 | 10,113 | 12,012 |
| ● 負債の部 | | | |
| 流動負債 | 4,719 | 3,056 | 4,653 |
| 固定負債 | 2,043 | 1,553 | 1,597 |
| 負債合計 | 6,763 | 4,610 | 6,251 |
| ● 純資産の部 | | | |
| 株主資本 | 6,276 | 5,285 | 5,669 |
| 資本金 | 3,958 | 3,958 | 3,958 |
| 利益剰余金 | 2,348 | 1,356 | 1,741 |
| 自己株式 | △ 31 | △ 30 | △ 30 |
| 評価・換算差額等 | 186 | 218 | 91 |
| 純資産合計 | 6,462 | 5,503 | 5,761 |
| 負債、純資産合計 | 13,225 | 10,113 | 12,012 |

四半期連結損益計算書（要旨）

単位：百万円

| 科 目 | 当第2四半期 平成21年4月1日から 平成21年9月30日まで | 前第2四半期 平成20年4月1日から 平成20年9月30日まで | 前会計年度 平成20年4月1日から 平成21年3月31日まで |
|------------------|---------------------------------------|---------------------------------------|--------------------------------------|
| 売上高 | 8,009 | 5,848 | 14,714 |
| 売上総利益 | 2,354 | 1,556 | 3,300 |
| 営業利益 | 712 | 100 | 606 |
| 経常利益 | 740 | 39 | 307 |
| 税金等調整前四半期(当期)純利益 | 646 | 76 | 503 |
| 四半期(当期)純利益 | 607 | 37 | 422 |

四半期連結キャッシュ・フロー計算書（要旨）

単位：百万円

| 科 目 | 当第2四半期 平成21年4月1日から 平成21年9月30日まで | 前第2四半期 平成20年4月1日から 平成20年9月30日まで | 前会計年度 平成20年4月1日から 平成21年3月31日まで |
|----------------------|---------------------------------------|---------------------------------------|--------------------------------------|
| 営業活動によるキャッシュ・フロー | 1,423 | △ 255 | 416 |
| 投資活動によるキャッシュ・フロー | △ 29 | △ 999 | △ 1,836 |
| 財務活動によるキャッシュ・フロー | 558 | 42 | 187 |
| 現金及び現金同等物に係る換算差額 | 16 | △ 7 | △ 54 |
| 現金及び現金同等物の増減額 | 1,969 | △ 1,219 | △ 1,288 |
| 現金及び現金同等物の期首残高 | 3,229 | 4,517 | 4,517 |
| 現金及び現金同等物の四半期末(期末)残高 | 5,198 | 3,297 | 3,229 |